

ユイレーシングスクールではスクールでこんなことを話すことがあります。

・クルマを運転する行為というものは、自分で脚本を書いて自分で演出して、その上自分が主役をはって自分が観客になって拍手も送れる、現代社会において自分を意のままにさらけだせる唯一の手段、知的遊戯と言ってもいい。ただし全ての束縛から逃れられるわけではない。クルマは物理学の法則に則って動くのだから、運動エネルギーを無視した運転は決して許されるものではない。

・人間不安があると、不安から逃れるためにその原因を確かめようとする。クルマを速く走らせようとするすると近くを見て運転するようになるのは、進むべき方向を確認しようとするからだ。しかし近くのは短時間で自分に迫ってくる。速く走れば速いほどあつという間に迫ってくる。不安を消そうとしている行為が、逆に人間を慌てさせ緊張させ不安を増す結果になっていることに気づかない。スクールで『アヘッてな感じで走って下さい』とアドバイスするのは、クルマに速く走ってもらうのはいいけど、自分が速く走ろうとしては損ですよ、という意味だ。

・片側2車線の道路の交差点でUターンをしようとして一度で回り切れずバックして切り返しているクルマを見たことがあるだろう。彼は(彼女は)対向車がやってくる前にUターンを終えたいと思ったのかUターン禁止の交差点で急いでいたのか、いずれにしろスロットルを開けながらステアリングを回した結果のアンダーステア誘発からのUターン失敗で、はからずも自分がクルマの運転をわかっていないということを露呈してしまった。加速すれば荷重がリアに移動して前輪のグリップは減るのはコトワリだ。クルマが大回りしてしまうのは自明の理だ。

・オーバルスクールで『スロットルを床まで踏んで下さい』と言っても躊躇する人がいる。全開で加速するとスピードが加速度的に速くなるのは当然なのだけど、クルマがロールしていない状態ならばフルスロットルにしてもクルマがバランスを崩すことはない。しかし漠然とした不安があるのだろう、ゆっくりとスロットルを開けていくから YRS オーバルの直線の長さでは全開にできない。危ないことをして下さい、と言っているわけではなく、全開で加速して危ないと思ったらスロットルを閉じればいいだけの話で、速くなるから危ないわけではない。だから『ステアリングを戻したら1秒でいいですから床まで瞬時に踏んで下さい』とアドバイス。全開加速で自分がのけぞりクルマものけぞることで、自分の操作とクルマの動きが連動していることを感じるができる。そうやってリズムは蓄積できる。無理をする必要はないけど理にかなった方法なら積極的に試してみるべきだ。

・人間の速さに対する能力というものはウサインボルトで時速36キロ。100mを20秒でしか走れない人は速さの限界が18キロでしかない。目から入ってくる情報もそこらあたりで処理能力が飽和しているかもしれない。そんな人間がクルマを走らせているのだから「運転に確かなことはない」と考えたほうが無難だ。クルマを自分の思い通りに動かしていると思うのは危険だ。人間は謙虚に、クルマは信用してもかまわないが、運転する自分が行う操作は疑ったほうがいい。常に、これで大丈夫なんだろうか。

・クルマには3つの機能しかない。加速と減速と旋回だ。クルマには4本のタイヤしかついてない。クルマの機能は4本のタイヤが路面をつかまえるから発揮できる。けれど4本のタイヤはクルマの重さを支え、その上絶えず向きと大きさの変わる運動エネルギーをも吸収してくれている。タイヤは常に大きな負担を抱えながら回転している。3つの機能のうちひとつだけを働かせている間はクルマは安定している。4本のうち主に負担を負っているのが2本だからだ。しかし運転の仕方によっては4本のうちの1本に大きな負担を強いる結果になることもある。それは決して本来のクルマの動かし方ではない。1本で支えるにはクルマが抱える運動エネルギーは大き過ぎるからだ。